

各火山の 4 月の活動解説

【北海道地方】

雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙量は、2015 年 6 月頃以降やや多い状態が続いている。また、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力¹⁾の変化は継続している。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

十勝岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域²⁾の拡大などを確認しており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

26 日に火山性微動が 2 回発生し、微動の発生中及び発生後には振幅の小さい火山性地震が一時的に増加したが、その後は概ね静穏に経過している。

27 日に実施した現地調査及び国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、これまでの観測（2015 年 6 月 2 日、6 月 5 日、7 月 3 日）と比較して山頂溶岩ドーム周辺の地熱域²⁾の拡がりに変化はなく、噴気等の状況に大きな変化はなかった。

山頂溶岩ドーム周辺では、1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

大雪山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

倶多楽〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

恵山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

【東北地方】

秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

女岳では、2009 年以降拡大した地熱域が引き続き認められる。

地震活動は概ね低調で、地殻変動及び噴気活動にも変化はみられないが、地熱活動が続いているので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

蔵王山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山性地震及び火山性微動は観測されなかった。

今期間は火山活動に特段の変化はなかったが、長期的にみると、2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、火山活動はやや高まった状態にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

火山性地震が 3 月 28 日から 4 月 6 日に多い状態となったが、その後は少ない状態で経過した。

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性があるため、大穴火口周辺（火口から概ね 500m の範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾、火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

岩木山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

八甲田山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

岩手山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

鳥海山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

くりこまやま

栗駒山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

あだたらやま

安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

ぼんだいさん

磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]**【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】**

くまつしらねさん

草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

湯釜火口の北から北東内壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続している。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分の火山活動の活発化を示す変化や、湯釜の水温が平年よりも高い状態が観測され、継続している。

小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

あさまやま

浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

2015 年 6 月 19 日の噴火後、噴火は観測されていない。

山頂火口からは、白色の噴煙が火口縁上概ね 400m 以下で経過している。火映⁴⁾は観測されていない。

8 日及び 19 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）⁵⁾の放出量は 1 日あたり 100～200 トン（前回 3 月 29 日：300 トン）とやや少ない状態で経過している。

山頂火口直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は引き続きやや多い状態が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過している。発生した地震の多くは BL 型地震（低周波地震）であった。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意が必要である。

にいがたけやま

新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

2015 年夏頃から噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12 月下旬からは噴煙量も多くなっている。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過したが、地震回数は 2015 年以降やや増加している。

今後の火山活動の推移に注意が必要である。

みだがはら

弥陀ヶ原 [噴火予報（活火山であることに留意）]

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過している。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発だったが、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意が必要である。また、この付近では火山ガスに注意が必要である。

おんたけさん

御嶽山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上概ね 900m 以下の高さで経過している。

火山性地震は少ない状態で経過しているが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていない。低周波地震を 24 日に 2 回観測した。低周波地震を観測したのは、2015 年 10 月 22 日以来である。低周波地震の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていない。火山性微動は観測されていない。

傾斜計⁶⁾や GNSS⁷⁾連続観測で、火山活動の高まりを示す変化は観測されていない。

2014 年 10 月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いている。火口列からの噴煙活動や、地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意が必要である。

ふじさん

富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

箱根山^{はこねやま} [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

大涌谷周辺での噴気の高さは概ね 600m 以下で経過している。大涌谷に設置している火口カメラによる観測では、大涌谷の火口や噴気孔及び大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出している。

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過している。火山性微動は観測されていない。

GNSS⁷⁾ 連続観測及び気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計⁶⁾ や体積ひずみ計⁸⁾ では、特段の変動はみられていない。

大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意が必要である。

伊豆大島^{いずおおしま} [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山性地震はやや少ない状態で経過している。低周波地震や火山性微動は観測されていない。

19 日に実施した現地調査では、三原山山頂火口内及びその周辺で噴気を引き続き確認した。また、三原山山頂火口内にある中央火孔の最高温度²⁾ は約 32℃で、1999 年以降ほぼ同じレベルで経過している。また、中央火孔内の地表面温度分布²⁾ は、前回（3 月 22 日）の観測と比べて特段の変化は認められない。その他、三原山山頂周辺の噴気温度²⁾ にも特段の変化は認められない。

地殻変動観測では、短期的な膨張や収縮を繰り返しながら、長期的には地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いている。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

三宅島^{みやけしま} [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

山頂浅部を震源とする火山性地震は概ね少ない状態で経過している。

12 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）⁵⁾ の放出量は 1 日あたり約 80 トン（前回 3 月 30 日：約 70 トン）で、少ない状態であった。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 9 月以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過している。

6 日に実施した現地調査では、主火孔内及びその周辺で引き続き高温領域²⁾ が認められ、前回の観測（3 月 15 日）と比べて、火口内の地形及び高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

主火孔における噴煙活動及び火山ガスの放出

が継続していることから、火口内では噴出現象が突発的に発生する可能性があるため、山頂火口内及び主火孔から 500m 以内では火山灰噴出に警戒が必要である。また、火山ガスの放出が継続していることから、風下にあたる地域では火山ガスに注意が必要である。

西之島^{にしのみま} [火口周辺警戒（入山危険）及び火山現象に関する海上警戒]

14 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、観測中（13 時 40 分～14 時 50 分）に火口及び火口周辺から噴気が認められたが、火山灰の放出や溶岩の流出等の噴火現象は認められなかった。噴気は、第 7 火口のほか火砕丘南側及び東側斜面にも認められ、噴気の付近には硫黄の析出と考えられる黄色領域が確認された。

2013 年 11 月以降、西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていたが、2015 年 11 月下旬以降はいずれも確認されていない。12 月以降は地表面温度の低下が確認されている。今期間に海上保安庁が実施した上空からの観測でも、観測中に噴火は認められなかった。

表面的な活動に低下が認められるものの、これまで 2 年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね 1.5km 以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾ に警戒が必要である。また、火口から半径 0.9 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがあるので、噴火に警戒が必要である。

硫黄島^{いおうとう} [火口周辺警戒（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警戒]

火山性地震はやや少ない状態で経過している。調和型及び単色型の火山性微動が 6 回発生した。火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに異常は認められなかった。

GNSS⁷⁾ 連続観測によると、地殻変動は隆起・停滞を繰り返している。2014 年以降は、島の北部ほど隆起が大きい状態が継続している。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福徳岡ノ場^{ふくとくおかのば} [噴火警戒（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警戒]

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観

測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ
那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

にっこうしらねさん
日光白根山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

やけど
焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

はくさん
白山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

のりくらだけ
乗鞍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

いずとうぶかさんぐん
伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

にいしま
新島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

こうづしま
神津島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

はちようしま
八丈島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

あおがしま
青ヶ島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

【九州地方及び南西諸島】

くじゅうさん
九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、GNSS⁷⁾ 連続観測によると、一部の基線で伸びの傾向が認められるので、今後の火山活動の推移に留意が必要である。

あそさん
阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

中岳第一火口では、16 日 08 時 30 分頃に噴火が発生し、乳白色の噴煙が火口縁上 100m まで上がった。

5 日、22 日、30 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁵⁾ は、1 日あたり 1,200~2,500 トン（3 月：1,400~2,500 トン）と多い状態であった。また、6 日、20 日、22 日、26 日に実施した現地調査では、前月に引き続き中岳第一火口内に灰色の湯だまりを確認し、湯だまり内で高さ 5 m 以下の土砂噴出を確認した。湯だまりの量は、いずれも噴煙のため不明であった。

15 日までには火山性地震は概ね少ない状態で経過し、孤立型微動は概ね多い状態で経過した。

16 日以降は「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の影響で、火山性地震や孤立型微動はこの地震発生前と同等の精度で計数できない状態であったが、火山活動によるとみられる特段の変化は認められなかった。火山性微動の振幅は、概ね小さな状態で経過していたが、30 日にはやや大きくなった。

中岳第一火口では、時々小規模な噴火が発生していることから、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾ 及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾ に注意が必要である。

うんげんだけ
雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっているので、今後の火山活動の推移に留意が必要である。

きりしまやま しんもろだけ
霧島山（新燃岳） [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

新燃岳付近を震源とする火山性地震が時々発生した。

20 日に実施した現地調査では、2008 年 8 月の噴火で形成された西側斜面の割れ目付近で、弱い噴気が認められた。また割れ目の下方からも、ごく弱い噴気が上がっていることを確認した。赤外熱映像装置²⁾ による観測では、噴気が上がっていた周辺で弱い熱異常域となっていることを確認した。

傾斜計⁶⁾ では、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の影響による変化がみられているが、火山活動に特段の変化は認められない。

GNSS⁷⁾ 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞している。また、新燃岳周辺の一部の基線で、2015 年 5 月頃からわずかに伸びの傾向がみられていたが、2015 年 10 月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾ に警戒が必要である。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき⁹⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

降雨時には、泥流や土石流に注意が必要である。

霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山性地震の月回数は 6 回で、前月（3 月：8 回）と同程度であった。

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められないが、2015 年 7 月頃から火山性地震の活動がやや活発化しているため、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山性地震の月回数は 15 回（3 月：28 回）と、少ない状態で経過した。震源は、硫黄山付近の海拔下 0～1 km に分布した。

火山性微動は 2 月 11 日以降、観測されていない。

8 日と 20 日に実施した現地調査では、硫黄山火口内および火口周辺で引き続き噴気を確認した。赤外熱映像装置²⁾による観測では、熱異常域は前回（3 月 24 日）に比べわずかに広がっていた。硫黄山の火口周辺の噴気地帯は引き続き拡大傾向にあるが、温度や噴気の量に大きな変化は認められない。なお、硫黄山付近では、これまでと同様に明らかに感じる程度の硫化水素臭を確認した。

火口周辺では火山ガスに注意が必要である。活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があるため、留意が必要である。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火回数は 51 回（3 月：8 回）で、このうち爆発的噴火は 15 回（3 月：5 回）であった。8 日 19 時 22 分の爆発的噴火で、多量の噴煙が火口縁上 3,700m まで上がった。この噴火に伴いごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の東側へ約 400m 流下した。また、29 日 17 時 17 分と 30 日 09 時 25 分の爆発的噴火でも、ごく小規模な火砕流が発生し、それぞれ昭和火口の南東側と東側に約 500m 流下した。弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾は 4 合目（昭和火口より 800～1,300m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火を 1 回観測（3 月：6 回）し、16 日 06 時 08 分の噴火で噴煙が火口縁上 1,700m まで上がった。

2 日に実施した現地調査では、2 日 03 時 11 分の爆発的噴火に伴い、桜島島内の鹿児島市有村町から古里町（昭和火口から南側約 3 km）にかけて降ったと推定される最大約 2 cm の小さな噴石³⁾（火山れき⁹⁾）を確認した。また、20 日

に実施した赤外熱映像装置²⁾による現地調査では、昭和火口近傍及び南岳南東側山腹でこれまでと同様に熱異常域を観測したが、特段の変化は認められなかった。

1 日、5 日、14 日、19 日、26 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄⁵⁾）の放出量は 1 日あたり 100～600 トン（3 月：100～500 トン）と、概ね少ない状態であった。

桜島島内での傾斜計⁶⁾、伸縮計¹⁰⁾による観測では、2015 年 8 月の急激な変動以降、顕著な山体膨張を示す地殻変動はみられていない。一方で、桜島島内の伸縮計では爆発的噴火の発生前にはわずかな伸張が、発生直後にはわずかな収縮が観測されている。

GNSS⁷⁾による観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向が引き続きみられている。島内では、2015 年 8 月の急激な山体膨張の変動以降、山体の収縮傾向がみられていたが、2016 年 1 月頃から停滞している。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾及び火砕流に警戒が必要である。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき⁹⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いているので、火山灰等が噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに注意が必要である。

口永良部島〔噴火警戒レベル 5、避難〕及び火山現象に関する海上警報〕

新岳では、2015 年 6 月 19 日の噴火後、噴火は観測されていない。

遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上 400m まで上がった。

期間内に実施した現地調査では、火口周辺の地形や噴気等の状況に変化は見られなかった。また、赤外熱映像装置²⁾による観測では、2015 年 3 月頃から 5 月 29 日の噴火前に温度上昇が認められていた新岳火口西側割れ目付近の領域の温度は、引き続き低下した状態であった。

期間中に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が実施し

た現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）⁵⁾の放出量は1日あたり70～200トンと概ねやや少ない状況であった（3月：80～100トン）。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されていない。

地殻変動観測では、2015年5月29日の噴火以降に特段の変化は認められない。

2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があり、火砕流に警戒が必要である。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。

噴火に伴う大きな噴石³⁾の飛散が予想される新岳火口から概ね2kmの範囲及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るため注意が必要である。

降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

新岳火口から半径1.4海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがあるので、噴火に警戒が必要である。

すわのせじま 諏訪之瀬島[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、爆発的噴火が14回発生するなど、活発な火山活動が継続した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、11日、15日、18日及び19日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認された他、鳴動が時々確認された。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1km

の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるので注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ 鶴見岳・伽藍岳[噴火予報(活火山であることに留意)]

- 1) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定される。
- 2) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器である。熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 3) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 4) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象。
- 5) 火口から放出される火山ガスには、マグマに溶けていた水蒸気や二酸化硫黄、硫化水素など様々な成分が含まれており、これらのうち、二酸化硫黄はマグマが浅部へ上昇するとその放出量が増加する。気象庁では、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用している。
- 6) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 7) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 8) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等で変化が観測されることがある。
- 9) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 10) 火山活動による地殻の伸び縮みを観測する機器。マグマ溜まりや火道内の圧力増加によって生じる火口周辺の変化が観測されることがある。